



シンガポール

Singapore Botanic Gardens (シンガポール植物園) 小笠原 誓



国立洋ラン園 (ナショナル・オーキッド・ガーデン)

経済発展著しいシンガポールは、マレー半島の南端に位置し、赤道のわずか137km北にあり、地球儀で見るとほぼ赤道直下になります。シンガポール植物園は、シンガポール島の中央のやや南寄りのところにあります。市内の繁華街からも近く生きやすいところがあります。敷地は63.7ヘクタールもの広さ(ナゴヤドーム13個分)もある巨大な植物園です。ゆっくりみようとすると1日では回り切れません。開園時間は午前5時から夜中の12時までの年中無休です。そもそも年中、日の出が午前7時、日没が午後7時の国で、午前5時の開園と、午前0時に閉園の意味がまだにわかりません。もしかすると暑い時間帯を避けて、夜に咲く花をご覧になるのかもしれない。



植物園入口

入園は無料ですが、園内の国立洋ラン園(ナショナル・オーキッド・ガーデン)は\$5(約400円)の入場料が必要です。歴史は古く1859年に設立され、国の歴史とともに愛護し、現在に至っています。2015年にユネスコで世界遺産リストに登録され、初のシンガポールの世界遺産になりました。

広大な植物園ですが、園内はいろいろなテーマに分けて整備されています。いくつかのテーマを紹介します。



熱帯温室に開かれた野外音楽堂

【シンガポールの国花の庭】

シンガポールはランの生産が盛んで日本などに輸出されています。この国の国花は、バンダ・ミス・ジョアキムというランです。数株ずつ支柱に結ばれた株が稲穂のように植えてあります。高さは2mほどで先端には花が咲き乱れていました。



国花 バンダ・ミス・ジョアキム

【国立洋ラン園(ナショナル・オーキッド・ガーデン)】

この植物園の中でも一番の見所であり、約1000の原種、約2000の交配種の洋ラン、約6万株が3ヘクタールの丘に集められています。日本では植物園の温室で観られるような光景が戸外で咲いている光景は圧巻です。コショウラン、デンファレ、オンシジウム、カトレアが実に美しくディスプレイしてあります。ランの研究でも最前線にあるそうです。



エボリューション・ガーデン

【エボリューション・ガーデン】

エボリューションとは進化です。9.9ヘクタールの敷地に地球が誕生し、やがて植物が出現し現代にいたるまでの植物の進化の歴史を見せる庭園です。回遊式に設計されており、角を曲がるごとに新しい時代を見ることができます。藻類、コケからシダ植物になり、やがて種子を作る裸子植物から被子植物が発生する過程を実際の植物で観ることができました。



カーテン・アイビー (Cissus verticillata)

【カーテン・アイビー (Cissus verticillata)】

長い通路に沿って藤棚の様な棚仕立てにしたカーテン・アイビーです。カーテン・アイビーとは、一般的なアイビーの仲間ではなく、ブドウの仲間の植物です。赤味がかった細い糸のようなものは気根と呼ばれる根になります。この気根が緩やかなるようになり、この中を通ると不思議に涼しく感じられます。



旅人の木 (タビビトノキ)

【旅人の木 (Ravenna madagascariensis)】

植物園中央の池のほとりに旅人の木が数本植えてありました。諸説ありますが、名前の由来は薬材の付け根に水がたまり、旅人がのどを潤したと伝わっています。大きく育つと、バナナのような長く大きな葉を扇状に広げます。私が、長年観たかった植物によく出会えました。マダガスカル原産の植物ですが、湿かいところではよく見られます。日本では沖縄では戸外で植栽することができますが、台風など風が強いとなかなかここまで葉数を付けることができません。幾何学的な姿に何枚もシャッターを切りました。熱帯植物は日本では鉢植えや植物園の温室で観ることになりますが、原産地や自生地で雄大な育つものが多く、本来の姿を見ることができました。

【ボンスイ・ガーデン】

中国や日本の盆栽技術もしっかり取り入れられていました。ただし樹種はかなり違います。フィカス(ゴムノキの仲間)やバキボディウムなど、日本では見られない樹種を使った盆栽を見ることができました。



バキボディウムの盆栽

(2019.1.9-10撮影)



サフィニアアート ももいろハート

サフィニアは通常3号サイズ(9cm)のポットで葉っぱだけの状態で入荷します。今年は数量限定で3.5号サイズ(10.5cm)のボリュームアップした特別仕様の苗がやってきます。花も咲いた状態で入荷するので植えてすぐに楽しむことができます。今年はサフィニア販売から30年のアニバーサリーです。



カリブラコア スーパーベル レモンスライス

カリブラコアのなかでもダントツ人気No.1のレモンスライス。カリブラコアはペチュニアの親戚ではあるのですが、花はペチュニアよりとても小さく、育てやすいことも人気の要因です。ふわりボリュームよく広がります。イエローとホワイトの絶妙なカラーバランスが華やかさと共に爽やかなガーデンを作ってくれます。



ペチュニア 真輝

パイプレイヤーに比べて、なかのパープルがはきりと主張しています。ユーホルビアのダイヤモンドフロストとハンギングバスケットにしてみました。シンプルな組み合わせでも存在感のあるハンギングバスケットです。



トレンシア ピンクリバー

ペチュニアではないのですが、こちらだけご紹介したいイチオシの花です。ご存知のお客様も多いと思いますが、ブルーリバーのピンクバージョン。夏の暑さにも負けず、11月頃まで咲き続けるすばらしい花です。とてもお手軽に楽しめます。



ペチュニア 花舞姫シリーズ

ペチュニアの八重咲もいろいろありますが、ここまでのアンティークカラーで大輪は、いままでもなかったのではないのでしょうか。数量限定の新商品です。(5月中旬販売予定)

2019 ペチュニアコレクション

今年も春苗をご紹介する季節になりました。本来4月号で紹介するのがベストですが、4月号は母の日特集号になりますので、ひと足早くお伝えします。

今回は春のガーデニングシーズンの主役、ペチュニアをご紹介します。各花苗メーカーが春のガーデニングシーズンにあわせて、わたしたちも知らない品種があるほど無数の花苗を展開してきます。その中から名古屋園芸のお客様はどんな花をもとめているか考え、選んだ苗を販売します。

ここ数年、名古屋の夏は人にも植物にもやさしくない、猛烈な暑さとゲリラ豪雨を繰り返しています。そのような過酷な夏でも元気に咲くペチュニアを名古屋園芸ではオススメしていきたいと思えます。

さらに、今年のオススメとしては爽やかなカラーのペチュニア。ホワイト、グリーン、パープル系といったカラーで涼し気に演出してみたいはいかがでしょうか。

今回ご紹介した花苗はほんの一握りの品種です。もう少しお待ちいただくこととなりますが、素敵な花苗がたっぷり入荷しますので楽しみにしてください。

数量限定の品種も多いので、気になる品種がありましたら、お気軽に苗売場のスタッフにおたずねください。



ペチュニア パイプレイヤー

このペチュニアもパープル系にグリーンとの縁取りで爽やかなカラー。淡いパープルで、どの花とも組み合わせがしやすいペチュニアです。



スーパーチュニア ピスタピンク

スーパーチュニアといわれてもピンとこない方が多いと思いますが、実はとても優秀な品種です。暑さ・雨にも強く、非常に丈夫で株も大株になります。サフィニアの知名度に隠れた存在ですが、花のパフォーマンスは抜群です。一度植えるとみつきになる品種です。



ペチュニアピスタ ミニピンクスターミニブルースター

元来、ピスタシリーズは強健でとても丈夫に育つペチュニアです。その流れを受け継いで花のかわいさのところはもちろん、強健さも兼ね備えています。ミニブルースターはジャパンフラワーオペイヤーの最優秀賞も受賞しています。



ペチュニア 花衣シリーズ 紅水晶

2017年に登場したペチュニアでとても新進となったのがペチュニア花衣です。それまでの八重咲品種とは一味違い、和のテイストにも使える品種です。今年はピンク系の紅水晶が新しく登場します。何とも言えない絶妙な花色と花形がステキな寄せ植えを彩ります。



ペチュニア クリームソーダ

今年も爽やかなカラーのペチュニアがおすすめ。グリーン、ホワイト、パープル系のペチュニアで、暑い暑い名古屋を楽しんでみてはいかがでしょうか。クリームソーダもグリーンとホワイトのコントラストが爽やかな一鉢を演出してくれます。